

B-2

その人らしい暮らしを支えるユニットケアとは

ケア方針

理念の共有

暮らしの場

全職員で取り組んだ成果

広島市 安佐南区

介護老人福祉施設 ナーシングホームシャレー

生活相談員 松川 崇弘

介護主任 迫川 圭琴

共同研究者 ユニット推進委員会

FAX 番号 082-830-3327

施設（事業所）
またはサービスの
概要平成 28 年 4 月に開設したユニット型特別養護老人ホーム。10 ユニット(内 1 ユニットはショートステイ)、入居者は 1 ユニット 10 名。法人の理念は「隣人愛」～あなたを愛するよう
にあなたの隣人を愛しなさい～ 施設の行動指針は「目くばり・気くばり・思いやり」

I. <取り組み課題>

平成 28 年(2016 年)にユニット型特別養護老人ホームを開設。法人内ではユニットケアは初めてでありこれまで試行錯誤を重ね目の前の様々な課題に対して検討していきながら、ユニットケアを実践してきた。現在、開設して 7 年が経過。今まで自分たちがやってきたケアの振り返りと、外部評価を受けることで新たな課題への取り組み、そして、更なるケアの質の向上と入居者様の暮らしをより豊かにすることを目的として「ユニットリーダー実地研修施設」にチャレンジすることを決めた。

II. <具体的な取り組み>

1. チャレンジ表明と職員の意識改革
全職員を対象とし、施設長から職員会議、勉強会、申し送り、リーダーミーティング等で「ユニットリーダー実地研修施設」に挑戦することとその目的について話しをする。施設全体の意識づけをする。また、自分たちのケアの振り返りができる
2. 暮らしの場としてのユニットケア
月 1 回 2 時間、勤務時間内で勉強会を実施する。
「ユニットケアの理解」「ケア方針」「理念」等のテーマで全職員を対象とした勉強会を開催する。
3. ユニットケア推進委員会の発足
ユニットケア施設管理者研修・ユニットリーダー研修受講者をメンバーとして 10 名(施設長を含めた多職種)で委員会を発足。月 2 回の開催、現在も継続中。この委員会では現場で取り組んでいく内容について「誰が」「何を」「どのように」「いつまでに」を明確にし、計画的に進める。
—検討内容として—
①ケア方針・24 シートの作成
②ユニット内の設え
③楽しい食事

- ④入居者の暮らしをより豊かに
売店やパン販売の導入 図書・Bar コーナーを設置

III. <活動の成果と評価>

- ・みんなが同じ方向に向かえば実現できること
- ・施設のケアの方針が定まったこと
- ・職員によるケアのバラつきがなくなってきた
- ・家で感じていた食事風景・団欒
- ・食事の残飯量が減少

1 か月の残飯量平均(昼) 1 ヶ月のデータ
2023. 2 5. 1 kg⇒2024. 2 3. 9 kg 1. 2 kg減
・24 シートの必要性の理解

その他にも、入居者様がソファでリラックスしてくつろぐ姿、売店で購入する楽しみ、図書・Bar コーナーでの気分転換、入居者様同士の会話が増え、会話の内容にも変化が出た。

ミーティングの場でスタッフから暮らしの視点で意見が出始めたこと等、1 つの方向に向いていることが実感できる場面が増えた。

一方、新たなことに取り組むにあたって作成する書式が増え、慣れないことを始めていくことによる職員の心身の負担、入居者に寄り添う時間が減っている現状。入居者と向き合いたいのにゆっくり向き合えないジレンマがある。

IV. <今後の課題>

- ・入居者の暮らしの更なる充実として、24 シートの記録をより詳細に入力していく
- ・個別排泄ケアの取り組み
- ・業務効率化による職員の負担軽減

V. <参考資料など>

ユニットケア研修テキスト 中央法規
「入居者の暮らしを支えるユニットケア」